ISSN 2434-8198
March,2023

松原市文化財情報誌

たじひのだより

特集　松原市の新しい指定文化財

No.22

松原市指定有形文化財
美術工芸品　彫刻　彫第５号

来迎寺木造阿弥陀如来立像

指定年月日：令和４年（2022）６月24日
員　　数：１躯
所　有　者：宗教法人 来迎寺
所　在　地：松原市丹南３丁目１－22
時　　代：平安時代中期（10世紀）
形状・寸法等：一木造
像高102.4 cm、髪際高94.2 cm

松原市指定有形文化財
美術工芸品　考古資料　考第１号

立部遺跡火葬墓出土須恵器蔵骨器（壺・蓋）

附 火葬骨ほか火葬墓内遺物

指定年月日：令和４年（2022）９月29日
員　　数：一括
所　有　者：松原市（松原市教育委員会）
所　在　地：松原市阿保１丁目１－１
時　　代：平安時代初頭（９世紀前半）
形状・寸法等：須恵器壺 口径9.5 cm、器高23.6 cm、
底径12.4 cm、最大径 23.4 cm
須恵器蓋 口径12.4 cm、器高3.0 cm

丹比の地で平安時代から守り継がれてきた阿弥陀如来

来迎寺木造阿弥陀如来立像

丹南の来迎寺（丹南本山来迎寺）にある西福院（令和4年10月落慶）の本尊です。もとは廃寺となった西福寺（堺市美原区大保）の本尊でした。今から1,100年ほど前の平安時代中期（10世紀）の作で、頭と体幹を一材から彫出す一木造の技法で制作されています。現在は来迎印を結ぶ阿弥陀如来の姿ですが、頭の形や顔つきなどの特徴から当初は薬師如来であった可能性があります。

当時、松原市丹南と堺市美原区をふくむ一帯は河内国丹比郡と呼ばれ、仏像はこの地にあったいずれかの古代寺院で祀られていた可能性があります。そして、いつの頃か両手先の部材が付け替えられ阿弥陀如来として人々の祈りを集めるようになり、今日に至っています。

地髪と肉髻（頭頂部の盛り上がった部分。悟りを開いた如来の特徴）の段差が小さく、螺髪（縮れて渦を巻いた頭髪）の粒が大きい点が特徴です

頬の張る顔つきで、細く切れ長の眼は目尻が上がり、鼻筋はよく通り、上唇は厚みがあります。目は彫眼（木材から直接彫出して表現する技法）です

耳たぶは穴を開けない耳朶不貫という形です。頭部の特徴とセットで平安時代の薬師如来像に見られます

背中の首のあたりから内側の木材をくり抜いています（内刳り）

9世紀の仏像にくらべて引き締まった体つきをしています。まとった着衣のしわ（衣文）は浅く角のある稜線と丸みのある深い彫りを交互に施して表現されています。

両手とも外に向かって開き第1指と第2指をつなぐ来迎印ですが、これは後の時代の部材（後補）で、当初は薬師如来の印、あるいは薬壺を持っていたと思われます

後の時代に色が塗られていますが、作られた時は何も塗らずカヤ材の木地を見せる状態または檀木に似せて薄く色を塗った檀色のどちらかであったと考えられます

両足をやや開いて台座の上に真っすぐ立っています。足先の部分は両方とも後の時代の部材です。仏像の底には穴が開いていて、台座の心棒に挿し込み固定されています

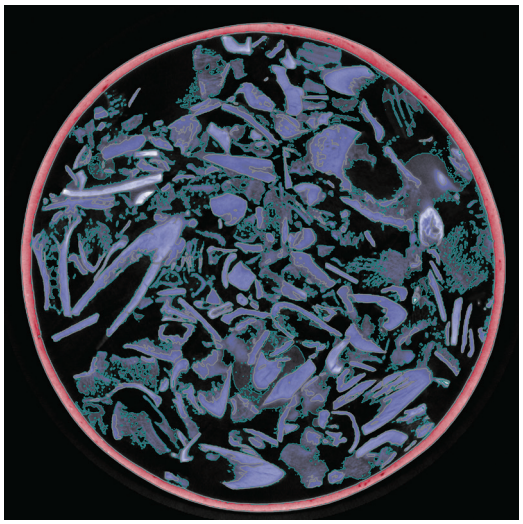
仏像が立つ台座と光背は、江戸時代に作り直されたものです。蓮華の台座、そして光背に表された体から発する光と空を流れる雲は、来迎する如来を表現しています

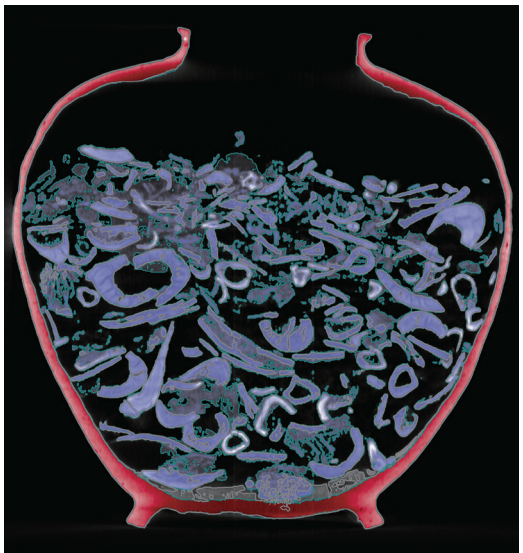
▲仏像の左側頭部

被葬者は古墳時代から立部の地を治めた在地豪族

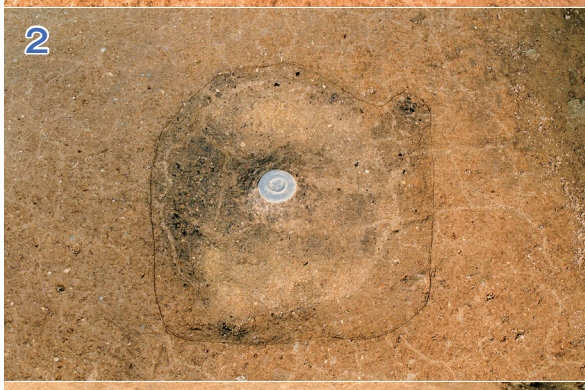
立部遺跡火葬墓出土須恵器蔵骨器(壺・蓋)
附 火葬骨ほか火葬墓内遺物

松原市立部３丁目地内の立部遺跡・立部古墳群跡で見つかった在地豪族の一族墓地内の火葬墓（９世紀前半・平安時代初頭）から出土したもので、蔵骨器内には納骨されたときの姿で火葬骨が残されていました。この資料は以前に本誌19号で、被葬者が遠方で死亡・火葬された後、本貫地の立部に帰葬された可能性があることをお伝えしました。しかし、蔵骨器内の焼土と立部遺跡の土をさらに分析した結果、墓地のあたりで火葬された可能性が高く、蔵骨器は遠方の品を使用したと考えられます。ただ、古代の文献史料に遠方で死亡した役人が遺体で本貫地に帰って火葬された事例もあるため、帰葬の有無を明らかにするには今後も調査と研究が必要です。この資料は、古代の丹比地域における葬送儀礼や在地豪族の墓制を考える上で貴重なものです。





◀物を透過するX線の作用を使い撮影した蔵骨器の中の様子（X線CT画像）。上の写真が横方向に輪切りにしたもので、下の写真が縦方向に輪切りにしたものです。蔵骨器を赤色、人の骨を紫色（輪郭は緑色）、焼けた土と炭を灰色に塗分けています



1. 最初に火葬墓を見つけたときの様子です。蔵骨器の蓋の部分が見えています

2. 火葬墓の穴を埋めていた一番上の土を取りのぞくと炭が見えてきました

3. 観察用の畦を十字に残し穴の底まで掘り下げました。底まで炭がぎっしり埋まっています

4. 炭を全て取り除くと隣から土師器の破片が出土しました

5. 蓋をとると、壺と蓋を固定した粘土がありました

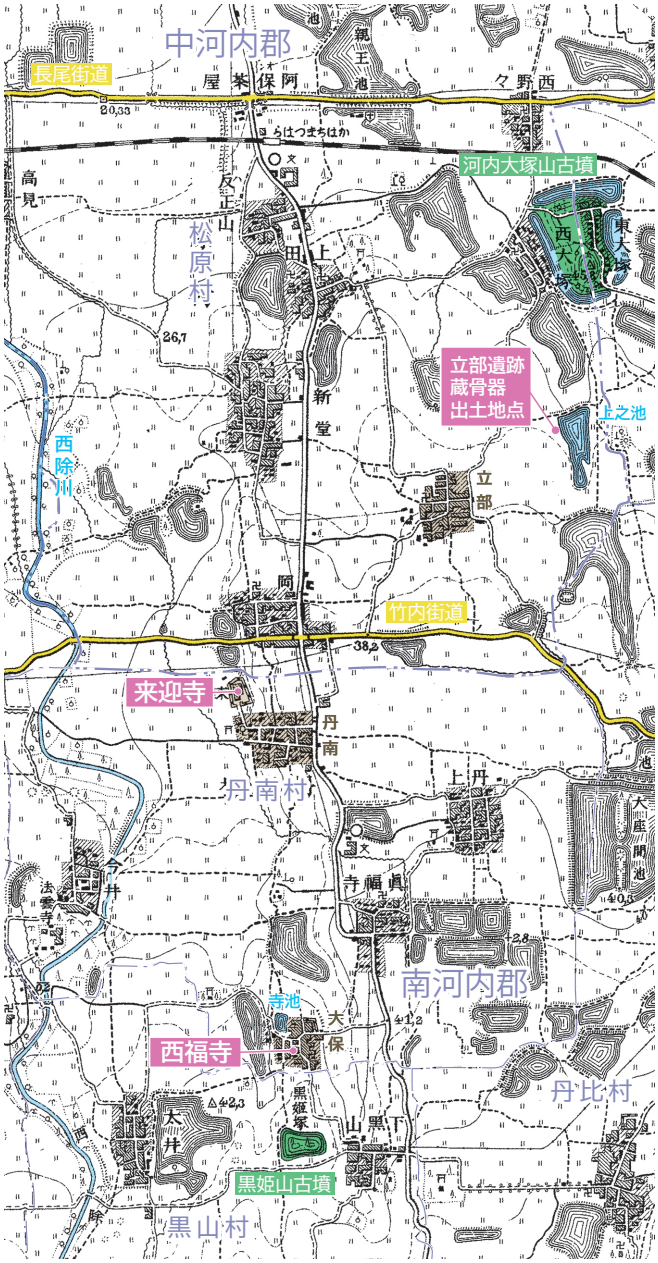
6. 蔵骨器を取り上げると、火葬墓の底に小さな窪みを掘って壺を据えたことがわかりました

古代の丹比地域について

現在、大阪府松原市から堺市美原区の一帯は南河内という地域名で呼ばれていますが、平安時代には河内国丹比郡と呼ばれていました。古代の国家は律令を定めて国土を60ほどの「国」に分け、それをいくつかの「郡」に分け、さらに細かい「里（のちに郷）」に分けて支配しました。現在の大阪府域は畿内の一部で、摂津・河内・和泉の３つの国が置かれました。10世紀に成立した『和名類聚抄』には、河内国が14郡から成り丹比郡に11郷が存在したと記されています。右の地図にある大字丹上と黒山は郷名がそのまま残ったもので、大字丹南は11世紀後半に丹比郡が分かれた３郡（丹北・丹南・八上）のうちの一つの郡名が残ったものです。

平安時代以前の丹比地域ですが、５世紀に首長墓の黒姫山古墳をはじめ多くの古墳が築かれるため、この時期に土地開発が本格化したと考えられます。指定文化財の蔵骨器をともなう火葬墓がある墓地でもこの時期に古墳が造られ始めます。その後、７世紀の飛鳥時代には古代寺院が多く建立され、指定文化財の阿弥陀如来立像を祀っていた大保地区でもため池の寺池あたりに古代寺院があったと伝えられており、瓦も採取されています。

撮影は平成11年（1999）。空から見た竹内街道から南側の様子



今から約100年前（大正11年（1922）ころ）の河内松原駅から南の様子。当時、丹南地区と大保地区は南河内郡丹南村の一部でした。

※国土地理院が保有する旧版地図の2万5千分1地形図「古市」（正大11年に大日本帝国陸地測量部が測量）を加工して作成

文化財データの公開について

今回紹介した指定文化財は、市のウェブサイトで詳しい説明（指定調書）を公開中です。また、『まつばらいろはかるた』の題材になった文化財の情報についても、自由に二次利用可能なクリエイティブ・コモンズ・ライセンスで公開中です。さらには、日本中の文化財と一緒に楽しめるよう「文化遺産オンライン」や「ジャパンサーチ」といったポータルサイトと連携しています。右のQRコードからご覧ください。

来迎寺木造阿弥陀如来立像の詳しい説明

まつばら文化財デジタルアーカイブ

文化遺産オンライン（文化庁）

立部遺跡火葬墓出土蔵骨器の詳しい説明

全国遺跡報告総覧（奈良文化財研究所）

ジャパンサーチ（国立国会図書館）

松原市文化財情報誌 たじひのだより No.22 令和5年3月発行
【発行】松原市教育委員会 【編集】松原市教育委員会事務局 教育総務部 文化財課 〒580-8501 大阪府松原市阿保1丁目1番1号 電話:072-334-1550(代表) FAX:072-332-7720